

令和6年度 第1回 美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

議事録

日時：令和6年6月5日（水） 14：28～16：15

場所：美濃加茂市生涯学習センター集会室201

出席委員：16名

○開会（14：28）

（事務局 山田）

○会長挨拶

（市長）改めまして皆様、こんにちは、本日は大変お忙しい皆様ですけれども、今年度初にあたりまず第1回の活性化協議会に皆様にはご出席を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。また松本先生大変お忙しい中ありがとうございます。今回から初参加という方のご紹介ありましたけれども、まずもって今日までのこの活性化協議会に携わっていただきました皆様方にはコロナであったりとか、再編も含めてですね、様々なチャレンジそして改善してきましたけれども、後ほど報告、今日の資料にもありますけれども、昨年度一昨年度をはるかに上回る利用があったということで、一つこの点においては良い報告ができるんじゃないかなと思っております。松本先生からは全国公共交通とは決してこういう数字ではないというご指摘をいただく中で、昨年度だけでも約1万5000人増ということで我々としてはこのあい愛バス、最初はですね、空気を乗せているバスをいつまで走らせるんだという声もありましたし、日中そういった時間帯もありますので、なかなか改善点を見つけていかなければいけない状況ですけれども、まずもって委員の皆様方そして事業者の皆様には様々なご苦労がある中ですし、市の方ですね、取り巻く環境はですね、ニュース等ではあまりいいニュースがないですけれども、こういった形で地域公共交通を維持できることに重ねての感謝を申し上げたいと思います。今年はですね今年度美濃加茂市市政70周年ということで、市民の方々もかなり前向きに様々なイベントを企画してくださっています。既にですねそういったイベント申請があったので、このあい愛バス、うまく活用して人の移動を企画したいというご提案をいただいております。これはですねひとえにこれまでの実績があるからこそ、市民の方々への周知も徹底されたものになっておりますし、そういったイベントをする際にですね、利用したいということは大変ありがたいと思いますので、これどこまで利用者数が増えればいいのかというようなゴールはですね、あまり数字だけを求めていけないと思いますが、1人でも多くの方々にご案内いただき、また乗っていただく。そしてまたイベント等で活用される場合は、市外の方々、圏域外の方にも乗っていただけているということです。他の公共交通の皆さんとしっかりと連携をしながら、このあい愛バスに限らず、バス、タクシー、鉄道の皆さんと連携してこの地域の活性化につなげていきたいなと思っております。もう一つですねこのバスという視点で、周知が進んだということで、いろいろと課題もいただいております。特にですね、この時期、いよいよ暑くなるというところなんですけれども、美濃加茂市は近くに多治見市さん、全国の一番暑いまちと呼ばれる多治見市さんの近くということで、我々は大体多治見市さんの1度から0.5度くらい低い程度ですね。暑さはそんなに変わらないんですけれども、この時期我々が特に憂慮するのは子供たちの通学と下校ですね。まだ通学の時間帯はいいんですけれども、まさにこの時間帯が1年生、2年生が下校する時間でして、このとても暑い時間に子供を帰らせるのかという厳しいご指摘をいただいております。それについてはですね学校等で何とか対応してるんですけども、やはりですねバスを使えないかとかですね、ほんとに公共交通が連携できないかという声もいただいております。そして最近是不登校のお子さんたちがですね、ある特定の場所に、美濃加茂市ですと文化の森というところにあじさい教室があるんですけれども、ここを一つの拠点にしているんですが、それぞれ小学校が市内9か所ある中で、一番遠いところからその文化の森まで来ようと思っても、あい愛バスを乗り継ぐか、乗り継いでも1時間半近くなってしまうケースがあったり。バスの待ち時間もあるので、か、まあご両親、ご家族のお迎え。こういった形でしか行けないんだという大きな課題をいただいております。これはですね今日明日解決できる課題ではないと思いますが、皆様方にも注意いただきながら、事業者様方のご意見を賜りながら、こういった課題に一つ一つ、丁寧に向き合ってきたものがこのあい愛バスの一つの実績だと思いますので、ぜひそういった課題があるということをもたまたそれ以外にも多くの課題がまだございますので、ぜひ皆様方からも忌憚のないご意見を受けまして、この令和6年度もしっかりと市民の方々そして地域の方々にとっての公共交通が発展するよ

う引き続きのご支援またご指導賜りたいということをお頭のあいさつにかえさせていただきたいと思
います。今日は一日どうぞよろしくお願ひします。本当にありがとうございます。

(事務局 山田) それでは早速協議に入りたいと思ひます。ここからは当協議会の座長を務めていた
だいてお願ひします松本副会長に議事の進行をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(座長 松本) はい、それではここからは私の方で進行を務めさせていただきます。皆様方ご協力を
よろしくお願ひいたします。お手元の次第に従って進めてまいりたいと思ひます。最初の議題ですが、
関連がございますので議第1号の令和5年度事業報告、議第2号令和5年度の歳入歳出決算に関しま
してはまとめてご説明をお願ひいたします。

○協議・報告事項

・議題1号令和5年度事業報告及び、議題2号令和5年度歳入歳出決算

(事務局) みなさんこんにちは。本日議題1号から5号までの説明をさせていただきます事務局の田
中と申します。それでは早速議第1号「令和5年度事業報告」についてご説明いたします。1ページ
から2ページをご覧ください。令和5年度は、当協議会を書面決議も含め3回開催し、あい愛バスの
ダイヤ改正や補助金申請に関する事など、利便性向上や運営の安定化などに向けた各種協議を行っ
ていただきました。令和4年度に引き続き、多くの方にあい愛バスをご利用いただけるよう、積極的
な取組を行いました。まず、「利便性を高める取組」として、10月に美濃加茂市公式LINEのメ
ニューに「あい愛バス」の項目を設け、必要な情報に気軽にアクセスができる環境を整えました。さら
に11月にはアンケート調査を実施し令和4年8月に改正した時刻表や将来導入予定のAIデマン
ドバスの利用方法について、市民の方の意見を伺いました。こちらのアンケートにつきましては、ロ
ゴフォームという自治体専用の簡単ウェブフォームを使ったアンケートで、美濃加茂市公式LINE
にて呼びかけを行いました。そうしたところ、配信日に前年度の令和4年度実績を上回る368件回
答をいただき、この結果は今後のダイヤ改正の参考やAIデマンドバスの導入時に参考にさせていた
だきたいと考えています。次に、「関心や愛着を高める取組」として、4月の県議会議員選挙の投票
期間、11月の市民まつりには、恒例となっている「バスに親しむ日」を開催し無料乗車日も設け多
くの方にご利用いただきました。昨年度の新しい取り組みといたしましては、11月1日から加茂高
生が考案をした、あい愛バスポイントカード企画というものを実施しました。これは、あい愛バス1
乗車ごとにシールを1枚もらい、10枚集めると粗品と交換といったもので、期間中に121名の方
がイベントに参加されました。この取り組みにより、この期間の1年前の令和4年度の11月、12
月、1月と比較して、およそ10%バスの利用者が増加したという結果が出ております。そしてさら
に12月にはあい愛バス車内でのクリスマス装飾、市民まつりで参加者による「あい愛バスぬりえ」
をしていただいたんですが、そちらの車内掲示などを実施しました。その他、「知識を深める取組」
として、5月、7月、1月に、「東今泉にここサロン」「サロン蔵前」「ケアマネ部会」にてそれ
ぞれ出前講座、11月には、山之上小学校の児童と教職員に出前講座を実施しあい愛バスの乗り方な
どを説明しました。このように、各種取組により、バスの利用促進をはじめ、親しみやすさや愛着を
さらに深めていただけるよう努めています。

続けて、議第2号「令和5年度歳入歳出決算」についてご説明いたします。次第の3ページをご覧
ください。「歳入」は、「市からの負担金」「前年度繰越金」「預金利息」の収入があり、決算額は、
529,048円となりました。「歳出」は、運営費として、会議開催時の「お茶代」、協議会開催
の「委員報償」、会議資料等の送付に係る「郵便料金」、また、事業費として、バス利用促進イベ
ントとして行った市民まつりやポイントカードの景品、1日乗車券の印刷費等に支出し、決算額は、
460,565円となりました。この結果、差引額68,483円を次年度へ繰り越しています。以上
で説明を終わります。

(座長 松本) この決算に関しましては、監査員の方々に監査いただいております。今回監査委員を
代表いたしまして、藤井正義さんの方から監査報告をお願ひいたします。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) はい。それでは資料1をみていただけますか。令和5年度決算につ
きまして、監査を実施し、証拠書類、帳簿などを精査したところ、適正に処理をされておりましたの

で報告をいたします。監査日は令和6年5月21日、監査員・藤井正義、もう一人朝日さん。以上でございます。

(座長 松本) はいどうもありがとうございました。それではただいまのこの議題1号に関しましてご質問ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですかね。今、事業報告ということでさらっとお話しいただいておりますが、いろんな自治体をお手伝いさせておりますが、これだけしっかりやっていたのはそんなに多くないと思います。1個1個決して派手ではないですが、こういう工夫、周知に繋がるような取り組みをやっていただいて、それから高校生なんかにも協力いただいて、大変すばらしいと思います。後ほどきつといい報告が聞けるとありますが、需要が増えてるとというのはこういう地道な利用促進の積み重ねの結果だなというふうに本当に思っています。そして周知に繋がって行って、先ほど市長さんからもお話ありましたがあい愛バスを活用したりイベントにもつながってまたそれがプラスにつながる。まさにいい形になっていると思いますので、本当に事務局の方々にはこういった取り組みに関して感謝申し上げたいと思っております。それから特にこの協議会としては決算に関してご承認というのが中心になってくると思いますが、監査報告にございましたように、引き続き利用支援をされているということでございました。特にこの内容ご質問はございませんか。では、この議題1号、議題2号に関しまして原案通りご承認いただくということでよろしいでしょうか。

→異議なし(議第1号、議第2号協議が調う。)

(座長 松本) はい、ありがとうございました。それではご承認いただいたとさせていただきます。ありがとうございました。続きまして次の議題に移りたいと思いますが、これもまた関連いたしますので議題3号令和6年度事業計画(案)、議第4号令和6年度の歳入歳出予算(案)につきまして一括でご説明お願いいたします。

・議題3号令和6年度事業計画(案)及び、議題4号令和6年度歳入歳出予算(案)

(事務局) では、議題3号「令和6年度事業計画(案)」についてご説明いたします。次第の4ページをご覧ください。今年度も、利便の増進や地域の実情に応じた活動を積極的に推進します。出前講座、市民まつりへの出展を継続事業として行うほか、更なる利用促進の為、利用者数が落ち込む日中にバスを使った利用方法の提案や、高校生などの若者による公共交通利用方法の提案をいただき、新たな層の獲得に努めていきたいと考えています。また、来年の9月には美濃加茂市公共交通計画の更新時期を迎えます。地域懇談会やアンケート実施、公共交通の課題を調査・分析をした上で、第3次となる公共交通計画がよりよいものとなるよう、計画を策定します。合わせてA Iデマンド導入に向けた実証実験の準備を進め、今年度も、このような取り組みにより、公共交通計画に定める市の交通将来像の実現を目指し、少しでも利用しやすい公共交通となるよう努めていきたいと考えています。

続けて、議第4号「令和6年度歳入歳出予算(案)」についてご説明いたします。次第の5ページをご覧ください。「歳入」は、例年どおりの「市からの負担金」30万円に加えて、第3次美濃加茂市公共交通計画策定の為の委託金に応じた「市からの負担金」7,854,000円の合計8,154,000円を「負担金」として予算計上しています。その他、中部運輸局から計画策定の補助金として交付決定を受けた「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」3,836,000円の他、「前年度の繰越金」「預金利息」を計上し、予算額合計12,058,485円を見込んでいます。これに対し、「歳出」は、歳入見込額に応じて、前年度の支出状況や今年度の予定を踏まえた予算配分としています。支出の内容としましては、「運営費」6項目は、例年通りの「事務的な経費」を予定しており、事業費は、あい愛バスを中心とした公共交通の「利用促進や市民の理解や関心を高めるための取組に要する経費」として210,000円を予定しています。今年度新たに歳出科目に「委託費」を計上しています。これは美濃加茂市地域公共交通計画策定に係る令和6年度調査業務に係る委託費で、委託事業者に支払う予定の金額を計上しています。契約の内容や今後のスケジュールにつきましては、後程、報告事項4にて詳しくご説明申し上げます。なお、「予備費」に計上している国補助金及び市負担金と委託費の差額に戻入予定とありますのは、計画策定に係る国の補助金の主体は市ではなく協議会である必要があり、支払先口座が協議会となっているため、いったん市から負担金として歳入をした額から、必要な委託費の支払い、及び国からの補助金の歳入分を差し引いて余剰がでた分はすべて市に戻し入れる流れとなっています。以上で説明を終わります。

(座長 松本) はい、ありがとうございました。それではただいまの件に関してご質問ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。昨年度と比べて大きく違うのは、この計画策定業務が入ったということであり、計画策定のための調査業務ですね、調査業務が入ったということで金額的には大きくなっておりませんが、そのところということになります。それから先ほど繰り返しになりますが、今回この調査を実施するに当たりましては、国の方から補助金をいただけることになっておりますね。調査自体は、この歳出の方をみていただきますと775万5000円ぐらいということですが、それに対して約半額の383万6000円を国の方から補助金でもらえているということであり、ですから市としてはその半額の支出に実際にはなっておりますが、一度当協議会に入れてその後市の方に返還するというふうに見かけ上このように大きくなっているという風に理解いただければよろしいかと思っております。いかがでしょうか。それからこの事業に関しては、今年度実施いただいた先ほどたくさん実施いただいておりましたが同じような内容のことをやっていただけるということでもよかったですかね。引き続きやっていただけるということでもよろしいでしょうか。はい。特にではご異論ないようでございますので、この議題3号、議題4号、に関しまして原案通りご承認いただくということでもよろしいでしょうか。

→異議なし(議第3号、議第4号協議が調う。)

(座長 松本) はい、ありがとうございました、ご承認いただいたというふうにさせていただきます。ありがとうございました。それでは続きまして議題5号「令和7年度生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)」ということでご説明をお願いいたします。

・議第5号「令和7年度生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)」について

(事務局) 続けて、議第5号「令和7年度生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)」についてご説明します。次第の6ページをご覧ください。この計画は、令和7年度の補助を受けるためのものとなります。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、改めて、地域内フィーダー系統について、簡単にご説明いたします。ここで言う、「地域内フィーダー系統」とは、市町村間を結ぶ主要な路線バスや鉄道など国庫補助の対象となる地域間幹線系統につながり、支線としての要件を満たす、市内の各地域から運行される路線バスなどのことです。当市では、これに準じた「交通不便地域」の認定を受けており、地域間幹線と位置付ける「JR高山本線」と「美濃太田駅」で接続する「あまの森・しょうよう線」「フルーツ山之上線」「フルーツ蜂屋線」「さとやま線」の4路線が、フィーダー補助金の対象となっております。多額の費用を必要とするバス運行事業においては、たいへんありがたい支援となりますので、引き続き、補助を受けるために、毎年、計画を更新し、国に申請しています。ではここで資料2-1をご覧ください。こちらが申請する計画案となります。計画の期間は、令和7年度が始まる「令和6年10月」から「令和9年9月」までの3年間について作成します。内容は、表紙以降のとおりですが、補助を受ける目的や必要性、補助を受けようとする路線、事業の目標値、事業の効果、目標を達成するための事業、これまでの協議会での協議内容、利用者等の意見や資料2-2の令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価の通知内容に対する反映状況などの必要事項を記載しています。次に、4ページから5ページの、みだし「13」及び「14」について説明いたします。現在、資料2-3にございます、あい愛バス「使用車両」情報のとおり、あい愛バスの運行には、バス車両5台の他、7台のワゴン車両を使用しています。このうち、再編当初に導入したワゴン車両2台は、購入後6年以上経過し、すでに40万キロを超えて走行しており、頻繁に故障する車両が出始めています。このため、運行を確実かつ安全に維持していくため、令和6年度に2台のワゴン車両、トヨタのハイエースコムーターに更新する予定です。この車両を主に地域内フィーダー補助系統4路線の運行に使用することなどを要件に、車両購入費用に対し、補助率2分の1の国の補助を受けることができます。昨年度購入した2台も、この補助を受けることとなっております。このため、今回も、この欄に更新の目的や必要性、目標や効果を記載し、車両減価償却費国庫補助金の申請を併せて行います。計画の添付資料として、末尾になりますが、表1、表5、表6を添えて、提出する予定です。なお、令和7年度から美濃加茂市地域公共交通計画との位置づけを記すことになっているため、そちらの注意事項は事務局で追加させていただくこととなっております。今後、岐阜運輸支局のご指導もいただきながら作成していきたいと思っておりますので、今後の手続きや軽

微な部分的な手直し等につきましては、事務局一任とさせていただきます。どうぞ、ご承知ください。以上で説明を終わります。

(座長 松本) はいありがとうございました。これは国から補助を受けるための申請ということになりますが、この協議会で計画を立ててその計画内容を国に申請します。そして国の方に認められれば補助金が決定されるという内容になります。ほぼ毎年同じですが、我々として確認しないといけないのは、まずは目標値ですね。資料2-1にあります。生活交通確保維持改善計画というのがあります。これは別紙となっているのですが、この別紙の2番、地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果でございます。これは当協議会として設定する目標値となります。令和7年あまの森・しょうよう線が22,500人、それからフルーツ山之上線が7,600人、フルーツ蜂屋線が7,600人、さとやま線が12,400人で合計124,000人っていうのを協議会として目標値を設定いたします。3年間ですので、令和7、8、9同じということで提案がされております。そしてこの赤字で書いてありますが、令和6年度では目標値を上回ったのですが、引き続き現状のサービスや利用者を維持しつつ、ニーズや課題を踏まえ、費用対効果、更なる利用促進や利便性を高めるよう努力していきます、ということですね、目標達成しておりますが、引き続き利用促進を行っていきますよという計画になっているというふうにご理解いただければと思います。そして、それに対して何やるんだというのが、3.2.の目標を達成するために行う事業及びその実施主体ということ。 (1)、 (2)、 (3) ということで様々な利用促進策を並べていただいております、こんなことをやっていきます。それから実施主体をみていただきますと美濃加茂市のみならず、交通事業者様、あるいは市民の方、関係団体の方もありますので、今一度この内容を皆さんにご確認いただいて、我々の計画ですから、皆さんもこれを一緒にやっていくのだという計画になりますので、その内容をご確認いただければと思います。そしてもう一つは、車両を購入いたしますので、それも国から補助を行うためにということで先ほどこれも繰り返しになりますが、キャラバンでしたっけ、2台はもう故障だらけですので、2台新しく買いたまおうということで、これも国の方に申請させていただくということでもあります。ちなみにキャラバンで普通乗用車ですよ。

(事務局) 普通乗用車です。

(座長 松本) 40万キロも走るのですね。こんなに走るんだ。バスはそれぐらい走ると聞きますが、すごいですね。整備すれば日本の車は走れるんですね。素晴らしいですね。はい。ということでございます。それから、これいつご説明いただけますか？2次評価っていうのは、資料2-2というのが皆さんのお手元にあると思います。これがですね、裏面をみていただきたいのですが、今年の2月に中部運輸局の方で第三者評価というのを受けております。これは我々が1月に出した自己評価の結果に対し、国の方で第三者評価を行った結果になります。褒められた点としては、アンケートや課題を踏まえ、可能な限り、コミュニティバスと鉄道の乗り継ぎやすさに配慮しつつ、慢性的な遅延解消に向けたダイヤ改正を計画していることを確認しました。あい愛バスについて、利便性の高いデジタルサービスの提供を推進するなど利用環境の向上や利用促進に努められ、R5バス事業年度においては過去最高の利用者数となったことを評価します。新たにミライロIDを導入したことを確認しました。「あい愛バスに親しむ日」として無料運行を実施するなど、継続的に新たな利用者の創出や利用促進に取り組まれていることを評価します。ということで、評価しますということは褒められています。確認しましたというのはやっていたねということです。2点を評価していただいている。これは素晴らしい褒め言葉をいただいているなと思います。一方で、期待する取り組みということですが、あい愛バスの令和6年4月のダイヤ改正については、改正後の利用状況等を注視し、その効果検証を行われることを期待します。乗継を必要とする方の課題解決策として1日乗車券の導入など、更なる利用環境の向上や利用促進に向けて検討や取り組みが推進されることを期待しますという。一点目は効果検証しなさいということですのでこれは多分調査によって検証される。それから二点目に関しては1日乗車券、先ほど予算でも事業でも挙げていただいております。さらに、この資料2-1の冊子のところで赤字でおよび一日乗車券の販売と書かれておまして、いわゆる国の第三者評価の結果を受けて今回の計画が策定されましたという形になっております。要は完璧な計画ですね。完璧な計画をやっていますねという感じなんですけど、ここが抜けてたりすると、国から何で第三者評価やったのに、何でちゃんと反映してくれてないと言われるかもしれないのですが、言われないことになっているかなと思っております。一応そういう形になっておりますが、皆様方に今一度目標値、はたして、全部で124,000人、これでよろしいかどうかという、それから、先ほどの利用促進のた

めの内容で十分かどうか、相談も含めてご質問、ご意見等いただければと思いますが、いかがでしょうか。ちなみに先ほど事務局からも説明しました。この中の数値の修正とか書き方の修正はこの後ありますので、それはもう事務局にお任せください。大きな趣旨が変わったりとかそういうことではありませんので、細かな調整は市局さんと事務局の方で事務的な仕組みでやっていただいて修正いただくということで、これはご承知いただければ。そうではないということや黒田さんの方で意見やご指摘があればと思います。

(岐阜運輸支局 黒田) はい岐阜運輸支局の黒田です。私の方からは松本先生もおっしゃられてるすぐよくできたものだと思いますが、車両に関してのところでは毎年更新していったらいいという話なんですけど今後継続して40万キロを超えてたと思われるので、今年度2台という話になるんですけども、ここの部分はもう来年再来年も、2台か3台かぐらいの入れ替えていくというふうに考えていらっしゃるということでしょうか。

(事務局) はい。それに関しては毎年2台という形よりかは走行距離に応じて更新していく。車両更新計画を立てておりますので、計画に沿っていくと今年度2台ということになります。

(岐阜運輸支局 黒田) わかりました。40万キロも走られているということで、多分大きなトラブルとかもないということで、にっちもさっちもいなくなった場合に交換をするという形ですかね。

(事務局) そうですね。やはり修理箇所が多くなってきておりますので、そうなった場合は新しい車に乗り換えていくということになります。

(岐阜運輸支局 黒田) わかりました。乗車定員については同じような規模の車を買って替えるということでしょうか。

(事務局) ワゴンタイプに関しては同じような車を購入予定で、バスタイプに関してはポンチョを更新していく予定でございます。

(岐阜運輸支局 黒田) わかりました。特段乗れなかったみたいな場合とかというのはこの車格で間に合うみたいな形で考えていますか。

(事務局) 予備車対応ということで、新太田タクシー様にご対応いただいております。特に古井駅ー可児川駅線という第一便が学生の方が多く乗られる便ですので、そこではほぼ予備車対応をしているという状況ですので、そういった場合でも対応させていただいております。

(岐阜運輸支局 黒田) わかりました。ありがとうございます。

(座長 松本) ちなみに環境対応ってというのはないのでしょうか？BYDが一台入っていますが、順々に増やしていくとか。

(事務局) どうしても、充電が必要なものでして、あまり増えすぎてしまうという運行に支障が出てしまうという恐れがありますので、そこは増やすとなると、バスの保有数が増えてしまい経費がかかってしまう。

(座長 松本) もちろんそうですが、キャラバンのような一般車が流用できるのなら、一般車の電気自動車とかハイブリッド車とか、何かそういうのいいのかなと。

(事務局) そちらも検討させていただきます。

(座長 松本) せっかく入れ替えていくなら、ちなみに世界的には、例えば私が去年行ったモントリオールなんかはバスをどんどん電気バスに入れ替えておられて、かなり電動化が進んでいます。

その意味はガソリンや軽油からちょっとずつ電気系あるいはハイブリッドに移行していくんですけど、少しずつ変えることが大事な、と思いますので、そういうことも含めて検討いただくとよいでしょうと思います。いいですね？ハイブリッド車で。黒田さん。

(岐阜運輸支局 黒田) 大丈夫です。

(座長 松本) ということだそうですね。ぜひ市としても環境に優しい施策を含めてもらうと皆様にも喜んでいただけるのかなという気がしました。はいすみませんありがとうございます。その他、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは特にご異論ないようでございます。先ほど申しましたよう、細かなことの修正は事務局にお任せするといたしまして、この議題5号に関して国への申請の内容ですが原案通りご承認いただけるということですのでよろしいでしょうか。

→異議なし(議第5号協議が調う。)

(座長 松本) はい。ありがとうございました。ではご承認いただいたということにさせていただきます、国への提出をお願いいたします。それでは続きまして報告事項ですかね。報告事項に移りたいと思います。報告事項1「令和5年度あい愛バスの運行に関する検証及び考察について」ということでご報告をお願いいたします。

・報告事項1 令和5年度あい愛バスの運行に関する検証及び考察について

(事務局) はい。代わりまして事務局から報告事項について説明させていただきます。まず報告事項1をご覧ください。よろしいでしょうか。令和5年度は新型コロナウイルスが5類に移行され、コロナ禍前の令和元年の状況と限りなく近い状況にあるため、当該年度を含め過去5年間の比較をし、検証や考察を行いました。資料3-2から資料3-4を参考にいただきながら、資料3-1に沿って報告いたします。それでは資料3-1をご覧ください。「全般」では、令和4年8月のダイヤ改正後初めて1年を通しての利用実績が集計されました。道路の混み具合や乗り継ぎのしやすさを考慮したダイヤ調整はもちろんのことですが、このダイヤ改正で大きく変わった点としましては、さとやま線及びほたる線が新たに「中部国際医療センター」のバス停を経由することとなり、3公園連絡線を合わせた計3路線からアクセスすることが可能になったことです。中部国際医療センターは令和4年1月に開院され、市内市外問わず多くの方が通院時にあい愛バスを利用していただいたことにより、利用者数が大きく伸びました。また、利用促進の面では、加茂高校生企画による、「あい愛バスポイントカード」により、利用への関心を高めたことや動機付けをしたことが効果となり、利用が高まっています。次に「路線関連」ですが、資料3-2をあわせてご覧ください。資料3-2では「各路線・各バス停の乗降者数」の表を付けています。「路線関連」では、朝の通学に非常に多くの学生から利用される「古井駅-可児川駅線」が、昨年度と同様に、最も利用される路線となっています。2位の「あまちの森・しょうよう線」は、沿線人口の多さもあり、通勤、通学の他、買物、通院のアクセスなど生活における主要な移動に多く利用されています。また、乗客数をみると令和4年度と比べ、333人の増加となっており9路線の中で最も利用者数が増えた路線となっております。3位の「まちなかぐるっと線」は買物や総合福祉会館へ行くために利用されており、利用者数は去年より微増しております。「バス停利用状況関連」では、利用の多い少ないはありますが、全バス停が利用されており、現状として、適切な配置であると捉えています。資料3-1に戻りますが、このうち、利用の多い、上位10ヶ所のバス停を確認してみると、1位と2位が「美濃太田駅北口と南口」、3位と10位が「美濃加茂高校」「美濃加茂高校グラウンド」、4位は「中部国際医療センター」が入っております。「美濃太田駅」バス停は、公共交通の乗換えの拠点として、重要な役割を果たしていることが分かり、中部国際医療センターは先ほど説明しましたが乗入れ路線が増えたことによる利用者数の増加が考えられます。5位と6位は「駅北商業団地」「MEGAドン・キホーテUNY美濃加茂店」になっており、上位には高校や商業施設に設置したバス停の利用が多いことから、通学と買物のために多くの方が利用していることが分かります。なお、7位の「総合福祉会館」は、高齢者の生きがいづくりの拠点施設であり、ここへの来館に多くの方が利用されていました。コロナによる外出自粛により、令和元年度と比べると利用が減少していますが、近年は回復傾向であるため、今後は積極的な情報発信を行い、利用を促すことに努める必要があると考えています。2ページ目に移り、●の「ダイヤ関連」の説明をいたします。資料3-3で「便別利用者数」の表をつけていますので、あ

わせてご覧ください。資料3-3の3ページに全体の合計を載せていますが、午前7時台～午前9時台に運行する「2便」の利用が最も多く、次に、午前6時台から8時台に運行する「1便」、続いて、午前9時台から11時台に運行する「3便」の順になっており、早朝から午前中に集中して利用されています。資料3-1に戻りますが、この利用の多い上位3便について、利用者の目的地や行先を、降車するバス停の利用状況から集計してみますと、以下に路線ごとの傾向を記載しています。全体としては、「美濃太田駅」バス停を乗換の拠点として、早朝は、通勤や通学や通院に、そのあとの時間帯は、買物や通院といったことに利用され、また、早朝に外出し、午前中に用事を済ませ、帰宅に利用されるなど、多くが、日常生活の移動に利用されていると捉えています。次に、「利用種別関連」について説明させていただきます。資料3-4で「利用区分ごとの使用実績」の表をつけていますので、あわせてご覧ください。資料3-4の下の表「●利用種別ごと」をみていただきますと、有料・無料の区分で分かれておりますが、有料については乗車券、回数券及び定期券の全てにおいてスマホ決済の割合が大きくなっており、令和元年にキャッシュレス決済を導入した効果が表れております。また、無料で利用できる「中学生」「障がい者やその介護者」「65歳以上の運転免許証自主返納者」の利用が、全体の約34.39%となっており、車での外出が難しい皆さんのバス利用も定着してきています。これは、令和5年度から資格証明書の発行を開始したことで、中学生が利用しやすくなったことや、ミライカードを導入したことで、障がい者手帳をお持ちの方の利便性が上がったことも要因の一つとして考えられます。このように、車以外での移動を求められる皆さんに利用していただけることは、コミュニティバスにとっての重要な役割が果たしているものと考えています。資料3-1に戻りますが、「利用者などの声」では、令和5年11月実施の美濃加茂市の公式LINEによるアンケート調査結果を記載しています。整理しますと、新規路線の希望、乗合型バスの導入、交通系ICカードを利用可能にする、モデルコースの作成等の意見がございました。皆様からいただいた意見は精査の上、できる限り政策に反映できるよう努めていきたいと考えており、今年度はモデルコースを作成し、あい愛バスのPRや利便性の向上を目指していきたいと思っております。最後に、「総括」として、あい愛バスの利用者は、大変ありがたいことに年々増えてきています。これは、現状の検証や考察から、次のようなことが主な要因であると捉えています。1つ目に時間に制限のある朝の通学や通勤での利用が可能であることです。特に学生においては、定員超過に対し、バスの大型化を図ったこと、さらに乗れない場合でも、確実に予備車で対応するなど、利用環境が整ってきており、より安心して利用できるようになったことです。2つ目に、ダイヤ改正を必要に応じて行うことにより、路線の新設や見直しを行ってきたことや、新たに経由地を増やしてきたことで、利用できる方が増えてきていることです。3つ目に、様々な利用促進対策に加え、キャッシュレス決済、無料対象者の方が乗車しやすい環境づくりをすることにより、利便性が向上するとともに、関心や理解も深まり、バス文化が定着してきたことです。今後、さらに利用者が増加することに期待していますが、今以上の勢いで伸び続けることは厳しいと推測できるため、まずは、現状のサービスの維持に努めつつ、費用対効果にも配慮した、利用促進や利便性の向上に努めていきたいと考えています。なお、今回の検証や考察からも、あい愛バスは、多くの方に、日常生活の様々な場面で利用されていることをあらためて確認できました。観光やイベントなどで、楽しく利用できる機会を増やしていくことも、まちづくりを支えるコミュニティバスの重要な役割であります。これからも自家用車に過度に依存しない交通の確保に向け、地域に必要とされる使える地域交通を作り出し、住みたい・行きたい地域を目指していきたいと考えております。「報告事項1」は以上となります。

(座長 松本) はい、ありがとうございます。それでは、本件に関しましてご質問ご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。いかかでしょうか。どんなことでも構いません。面白い報告がたくさんあったと思いますが、何かご質問等いかがでしょうか？よろしいですかね。先ほどの情報のところで資料3-2をみますと、どこでも乗降という記載があるのですが、0になっておりますが、他のところでカウントしているということですか。

(事務局) 例えばほたる線をみていただきますと、No14に赤字部分のどこでも乗降数の合計が記載されているということになります。

(座長 松本) ああなるほどなるほど。はいわかりました。じゃあそれなりに利用はあるということでしょうか。

(事務局) あるということになります。

(座長 松本) わかりました。そのほかいかかでしょうか。資料3-1の総括ですが、しっかりと分析いただいているなどと思ひまして、毎年やっていたいでいる。こういうのも重要な姿勢だと思ひますが、資料3-1の利用者などの声で、時間が遅れている場合、公式LINEから何分ほど送れているかを知れるようにして欲しいです。あい愛バスってLINEで遅れているってわからなかったですか。

(事務局) モークルというシステムを使ひて、モークルというシステムはLINEで友達追加をしまひて、路線ごとにです、クリックをすると今どこかという位置を知らせるもので、例えば2時30分にバスは到着するけど、何分遅れといった情報はつかめません。よって利用者が自分で考える必要があります。

(座長 松本) なるほどね。でも、前のバス停を何分遅れで出発したみたいな情報があると、少なくとも自分のバス停から考えてそれぐらい遅れるなどわかるのですがそれはできますか？

(事務局) システム上でできなくはないという話を過去の資料で確認してありますけども、お金がかかるため、今後の検討するべきことかなと思ひております。

(座長 松本) 使い慣れていない人にするとどこに走っていて、じゃあ何分ぐらい遅れてくるかというのは分かりにくいから、具体的に前のいくつ前のもいいんですが、現在の予定より何分遅れて走行中という情報があるといいですね。ぜひ改修のころ合ひをみて、予算を確保して、導入していただけたらと思ひます。その他よろしいでしょうか？

(岐阜県タクシー協会 黒田) タクシーとは少し関係ないのですが、資料3-4の中で、利用種別ごと有料の割合は全体で105.10%、無料運転は127.45%というのが数字で読み取れる。無料の乗車数が多くなった要因をお聞かせいただければ思ひます。

(事務局) 無料の方の乗車数が増えているところについてですけれども、中学生以下に関してはまずあい愛バスをより知ってもらえたということが一つ要因に挙げられます。先ほど私からも説明させていただきましたが、資格証明書を令和5年度から発行してあります、例えば中学生の方でも、個人差になりますけど、体の大きな中学生でも証明書を提示すれば気兼ねなく無料で乗車することができるといったことも一つ要因として挙げられます。あとは、障害者の方に関しては、ミライロIDという手帳とリンクしたアプリがございまして、それを提示することにより、わざわざ手帳を提示しなくてもよいという利便性が向上してあります。運転免許証自主返納者に関しては警察とも協力し、あい愛バスが無料で乗れるということをおPRしてありますので、そういったところも要因の一つとして考えられます。

(座長 松本) ここは奪い合うというよりは、公共交通で移動するパイが増えているというお考えいただくとよいかと思ひます。実際調べてみると、上手く使い分けていまして、ちょうど便があったり、目的地がある場合は、安いあい愛バスとかで行くのですが、帰りはタクシーを拾うとかそういう利用がありますので、全体的にみるとタクシーの利用が増えている可能性が十分ありますし、そこを目指していかなければいけないと思ひますから、取り合うという発想はやめて、皆さんで車から移ってもらうという発想に変えていただきたいと思ひております。そういう意味では、事務局としては、こういう障害者の方のパスとか中学生のパスとか中学生タクシーの方はちょっと難しいかもしれませんが、タクシーも利用できるよということをお案内いただくとよろしいかもしれません。はいどうもありがとうございました。ちなみに中学生8.6%すごいなと思ひんですけど、何に使っているのですか。

(事務局) 一つはあじさい教室のスクールバスがあると聞いているのですが、そこで乗れない外国人のこども。

(座長 松本) 認定校に通うのに少ない人数が毎日使っているということですね。

(事務局) 申し訳ございません。あじさい教室ではなく、外国人の方が日本語教室の利用のためのぞみ教室へ行くのですが、スクールバスが出ておるのですが、乗れない方がいらっしゃる場合はあい愛バスを利用されているという話を聞いておりますので、そこも一つの要因と考えております。

(座長 松本) なるほど。中学生とか高校生がこういうコミュニティバスを乗るという文化ができる、それはすごい美濃加茂市にとっていいことだなと思うんですね。それはお父さんお母さんたちが送り迎えをしなくていいですし、そのためにお父さんお母さんたちが送り迎えを我慢しないといけないんですけど、そういうふうになっていくと、ここは自分たちでも移動できるんだ。じゃあ、この先も美濃加茂市に住み続けようということにつながっていくかと思います。やはり高齢の方々に使っていただくというのは大事なんですが、実は若い人たちに使ってもらうというのは、将来的には非常に大きいことだと思いますので、そういう外国籍の方もですけど、一般の中学生とかどこかに行ったりするときに使ったらそうするといいですね。多分自転車で行っちゃうかと思いますがね、でもすごくいいと思います。ありがとうございました。はい。その他いかがでしょうか。それから先ほどお寺巡りコース、スイーツ巡りコース、ランチコースなどホテルコースがあると出かけそう。やりますと言っていたのですが、これはすごく大事だと思います。ですが、私はこれはできたら観光部局だとか、産業振興部局だとかそっちに作っていただいて、そしてそれをこっちのほうから情報提供していくということ。もう全部こっちでやっちゃいけないと思います。やっぱり向こうにも知ってもらうわないと。あい愛バス使えるでしょということ。使うのもっといろいろ考えてってやるといいと思うので、一緒にコラボレーションでいいと思いますが、やっていただくといいんじゃないかなと、観光だと観光部局でしっかり考えてもらうとすごい面白いのが出てくると思いますので、そんなの考えていただくといいかなという気がしております。あまり、交通セクションを全部やっちゃうと一杯一杯になって大変になっちゃうので、いろんなところの手を組んでやる、というのが大事かなと思います。はい、ありがとうございました。そして、それがインスタに上がると、知らないうちに他の町の若い方たちがいっぱい来るようになるんですよ。G T F Sで検索してみましたら、なぜか知らないですが、例えばどっかのおいしいスイーツの店で前に若い方たちがだーっと並んでるとかね。こんなこともありますので、ぜひそんな姿を描いてもらっていいかなと思います。はい、その他皆さんはどうでしょうか、よろしいですか。遠慮なくご質問含めて。はいでは木村さんお願いします。

(岐阜県バス協会 木村) 岐阜県バス協会の木村といいます。この美濃加茂市の通り口にすごく利用者が多くて、すごく成功例と言えるようになるのかなと思っております。その中で我々バス協会は今、その業務という課題がある中で事務局として、課題や今後確保維持するための課題として何か思っていることはありますか。

(事務局) 今の課題としましては、私4月から配属されまして、その中で市民の方からのご意見で一番多いのは行きたい目的地に何回も乗り継ぎしないといけないとか、買い物にあい愛バスを利用していても帰りの時間帯がないといったそういうお声がいくつかあります。そういった方たちのためにA Iデマンドを検討していかなければならないのかなと思っており、そういったところが課題に感じております。

(岐阜県バス協会 木村) 利用者の利便性の向上という観点からの課題ということだと思うんですけど、先ほど言いましたけど、不当で不足という部分はですね、今後新太田タクシー様の間に合っているとと思うんですけど、ちらっと聞いたんですけど、美濃加茂って外国人の方が多いという風に聞いたんです。今この外国人利用者を増やすという取り組みですが、日系の在留資格のある方たちが住んでみえると思うんですけど、今バス協会の方では、ドライバー不足ということで、先般技能研修生という外国人を取り入れようという動きがあって、それをするにはまだまだハードルが高い。今制度設計してるところなんですけども、それにはいろんな試験とかを受けていかなくなるのでなかなか現実的ではない中で、こういった地域に根付いた外国人の方がいらっしゃる。その中で人材を発掘ということですね。そうすれば日系の方で地元で育った運転手さんがドライバーとしてやれば、仮に外国人の方たちも気軽に話せるというようなですね。そういった部分でも私の場合は理想ですけども、こういった部分で人材を確保して、地域の足を外国の皆様とともに守っていこうというような未来図のシミュレーションがあるといいかなと思って提案させていただきました。

(事務局) ありがとうございます。今まちづくり課は多文化共生も担当しておりまして、おっしゃられるように運転手という職種がやはり身近に感じていない外国籍の方が多いですのでやはり高校生であったり中学生の学生さんたちに対して、やはり工場というのがもちろん一つの職種だと思いますけれども、そういう運転手さんという仕事があるんだということをこれから伝えていくべきかなと思っております。新太田タクシーさんもそういう言葉が、話ができる運転手さんがいらっしゃるということの言われておりますので、やはりそういう仕事があるんだということをまずお伝えできるところから始めていきたいと思っておりますし、もしそういう集まりの中でお話をさせていただきたいという声があるときにはぜひ声をかけさせていただきますので、どんなお仕事があるのかとか免許を取るのにやはり資金面の課題があると思っておりますので、そういった補助もできないかとか、そういったいろんな話をしていきたいという風に思っておりますので、そのときにはお声かけさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(岐阜県バス協会 木村) 会社の方で二種免許を取るという助成というか支援をしていますので、バス協会においても少しの額ですけども、助成という制度もございますので、そういうのを活用させていただきたいと思っております。

(事務局) ありがとうございます。

(座長 松本) はい、ありがとうございます。美濃加茂市の地域特性を踏まえた取り組みというのはおもしろいと思っておりますし、ぜひそういった特徴があるものを進めながら持続可能な仕組みを作っていくというのは本当に良いことだと思いますので、ぜひ皆さんにご協力して進めていただければと思います。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。よろしいですかね。いずれにしてもたくさんいろんなことを努力いただいて、こういう結果になっておりますが、終わりはありません。ゴールはないわけですが、引き続き市民の方に喜んでもらえるよう、事務局に頑張っていただきながら、このような形で検証を続けていきたいと思っております。はい。ありがとうございました。それでは報告事項2 あい愛バスの利用状況についてということでお願いいたします

・報告事項2 あい愛バスの利用状況について

(事務局) はい。報告事項2「あい愛バスの利用状況について」ご報告します。資料4をご覧ください。令和5年度は、あい愛バスの年間利用者数の目標を116,000人としていましたが、実績は141,411人となり、目標を達成し、過去最高の年間利用者数となりました。令和6年度も、4月及び5月それぞれの月で過去最高となっており、今年度目標とする年間利用者120,000人を達成できそうな現状となっております。また、遅延解消のため、令和6年4月1日にダイヤ改正を行った結果、運行事業者様にも確認をしましたが、遅延の問い合わせは減っており、ダイヤ改正の効果が表れております。「報告事項2」は以上となります。

(座長 松本) はいありがとうございました。今度はあい愛バス全体として順調に推移しているということでしたが、この件に関して質問等ございましたら。よろしいでしょうか。あの本当に喜ばしいことですし、ぜひこれは誇っていただければと思いますが、先ほど市長さんがあまり明るいニュースがない中でというお話でしたが、本当に明るいニュースですよ。こういう明るいニュースはとりあげてくれないですよ。本当にすごいことなんですけどね。こういうのをいっぱい取り上げてもらえればいいなと思っておりますが、少なくとも我々としてはこの皆さんのメンバーとしてはすごいお金がないような状況になっている。そして事務局をはじめ、皆様が一生懸命努力した結果なんだということで、皆様自負したいという風に思っております。はい。ありがとうございました。それでは報告事項3「あい愛バス「1日乗車券」の実績について」をお願いします。

・報告事項3 あい愛バス「1日乗車券」の実績について

(事務局) 報告事項3「あい愛バス「1日乗車券」の実績について」ご報告します。あい愛バスの「1日乗車券」については、料金が300円で、乗り継ぎが必要となる利用者の運賃負担の軽減を図るため令和6年4月1日から導入しました。令和6年4月分の1日乗車券の販売実績は11件となり

ますが、これから利用者数が増えるように、チラシ、SNS、モデルコース作成し、PRに努めていきたいと考えております。「報告事項3」は以上となります。

(座長 松本) はい。ありがとうございます。この件に関しまして何かございましたら。クイックライドは全体でどのくらい利用されていたのでしょうか？先ほど何かありましたよね。この定期券のスマホ回送券のスマホというのが資料3-4に、これがクイックライドですかね。結構定期なんかよく使われているんですね。8.11%ですね。結構使われているんですね。だから、全体で10%くらいはクイックライドが使われているということですね。数自体はまだ決して多くないんですが、こういうのは周知というのはまだまだ生き返らせれると思います。その利便性が伝わればだんだん増えていきますので、諦めずにぜひ周知をお願いしたいと思います。その他の皆様方よろしかったでしょうか。ちなみに、ごめんなさい。セクションに戻ると、資料3-4でLINE Payが0なんですね。これはなぜでしょうか。

(事務局) 私の個人的な意見としては、基本的にPay Payが市場のシェアNo1になりますので、LINE Pay自体を使用される方いなくなってきたのかなと思っております。

(座長 松本) なるほど。そういうことですね。LINE Payは皆さん使われていないんですね。Pay Payを皆が使われている。わかりました。皆様よろしいでしょうか。支払い方法もこれだけ大量に用意しているというのは本当にいいことですよ。本当に素晴らしいことだと思います。名古屋だと支払い方法も限られていますから。キャッシュかマネカか。例えばこういう電子マネーを使えると本当にいいなと思います。ましてや事前にご購入というのは本当にいいですね。という気がしております。素晴らしいと思います。ありがとうございます。では皆さんよろしいでしょうか。では、報告事項4「第3次美濃加茂市地域公共交通計画の策定について」ということでお願いします。

・報告事項4 第3次美濃加茂市地域公共交通計画の策定について

(事務局) 報告事項4「第3次美濃加茂市地域公共交通計画の策定について」ご報告します。令和6年度事業計画の話の中にもありましたように、令和7年度9月に美濃加茂市地域公共交通計画の更新時期を迎えます。令和5年度の第3回の報告事項で承認いただいた通り、業者選定につきましては、みのかも定住自立圏公共交通基本構想策定業務に係る指名型プロポーザル方式実施要領」に基づく審査により選定された「(株)テイコク加茂営業所」と随意契約をしました。資料5をご覧ください。策定までは基本的にこちらのスケジュールを基に進めてまいります。調査業務としてメインとなる業務が各種アンケートの集計・分析と地域懇談会になります。地域懇談会は計8回を予定しており、地域が「使いたい」と思える公共交通にするため、現在のダイヤに対する意見やAIデマンドの導入について議論を深めていきます。また交通事業者様の経営を圧迫しないように、自治体、事業者、地域住民一体となり、持続可能な地域公共の確保に向け働きかけていきたいと考えております。「報告事項4」は以上となります。

(座長 松本) はいありがとうございます。この件に関してはご質問、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。はい。では玉木さんお願いいたします。

(岐阜県公共交通課 玉木) 岐阜県公共交通課の玉木と申します。課長が都合により不在のため来させていただきます。今年度から公共交通計画を新しく策定されるということで、大変長いですがいろいろ頑張っていたいただければなと思っていますところで、最近ですね国の方でもいろいろ制度改正などがありまして、地域の足をみんなで担っていくということで、足の確保に使える制度というものの改正があったり、増えてきてたりという中で、そういった中でのお話をいろいろとしたいとさせていただいていますけれども、そこでいろいろな出る意見としては、利用されていない方の移動ニーズの把握について計画策定の中で予定されていることがあればお伺いしたいと思います。

(事務局) 利用されていない方の移動ニーズの把握についてですけれども、こちらのスケジュールに記載されているものと、移動ニーズはつかめないと思いますが、定住自立圏の公共交通の策定業務の中で、ビッグデータを使いますので、人流データを基に分析いたします。そちらの分析を基にあい

愛バスを利用されている方だったり、されていない方の動きを確認しながら情報を生かしていきたいと考えております。

(岐阜県公共交通課 玉木) ありがとうございます。スマホ移動位置情報のデータですかね。

(事務局) そうです。おっしゃるとおりです。

(座長 松本) はいありがとうございます。公共交通利用者の利用実態をとらえるとともに、利用されていない方々、自家用車あるいは自転車、徒歩等での移動に関しても捉えながら、そういう方々の公共交通の転換の可能性というのを探っていくということだと思います。はいありがとうございます。その他いかがでしょうか。はいでは、黒田さんお願いいたします。

(岐阜県タクシー協会 黒田) 資料5のスケジュールをまとめてやっていただきますが、良いかなと思うんです。この美濃加茂市の公共交通活性化協議会の役割、役割っていうのはある意味よくわからなくて、令和6年度においては、令和5年度を考えていると、6月と10月と1月に協議会は開催され、令和6年度も6月に第1回されたということになると、今後10月と1月に開催されるだろうという見込みはつきますけども、このスケジュールの中にこの会議の役割が見えてきていないのかなと。まあ今年は調査だから協議会の意見を聞かないというような判断であればそれはそれでよろしいですけども、判断を少し先生に聞くようなことであれば、スケジュールの中に協議会の位置付けを書かれた方がよろしいかと。来年度には計画を立てられますので、そこには出てくるだろうと推測されますが、6年度というのは判断しづらいと思いますので、もしその考え方があれば公表された方がよろしいかと思っております。

(事務局) ありがとうございます。活性化協議会と美濃加茂市地域公共交通計画は隣り合っておりますので、もちろん1月の活性協にはこのスケジュールの通りアンケート結果をまとめてご報告させていただきますので、そちらでご了承いただきたいなと思っております。

(座長 松本) そうするとこれには明確に書かれておりませんが、協議会でも現状の取りまとめを1回報告いただきながらこの1月となると、おそらくこれは課題の抽出まで行っていますので、その結果を取りまとめて課題としてこれが十分かというところを皆さんにお諮りしつつ、そして翌年度の1回目では計画の素案ぐらいまでできていて、その後どこかでパブリックコメントなんかも入ってくると思いますが計画策定の流れというのはここには必ずしも明確ではないので、そこを今一度明確にさせていただくということのご要望だと思いますので、またまとめ直していただければ、と思っております。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいですかね。では、これは業者さんからのご提案なんですが、協議会のメンバー向けのスケジュール進行形をいま一度作り直していただいて、改めて皆さんにご周知いただければと思います。ではありがとうございます。以上で、予定の議題すべて終了ということでございますが、全体を通して、皆様方から何かございましたら。市民委員の方々には毎回せつかくのこういう場でございますので、美濃加茂市の公共交通に関して思いがあれば一言ずついただければと思っております。では朝日委員からお願いいたします。

(住民代表 朝日) 現在は車を乗らせていただいておりますけども、もし自分が車に乗れなかった場合は、やはりあい愛バスの必要性がかなり重大となっておりますので、我々の地域は公共といったらあい愛バスしかありません。現在私も思いますけれども、年寄の方で90近い方が車に乗ってみえる方もいますね。あい愛バスがあるから使えばと思います。やはりあい愛バスが本当に必要になってくると思います。現に私も東京へ行ったんですけども、ちょうどその時はワイドビューとの時間がうまくつかなかったものですから、妻に送ってもらったのですが、帰りもいい時間帯があればあい愛バスを使おうと思ったんですけどタイミングがなくて、迎えに来ていただいたんですけども、常に自分自身はあい愛バスをこうやって役に立たせていただいておりますので、使いたいなと思っております。もっと増便してくださいということは、先ほど市長さんが最初言われましたように、空気を運んでいるというのが現状でみかけますから、そのあたりは大変だと思いますが、やはりこれから我々も高齢になると、私自身が沢山使おうと思います。このようにこれからどんどん改善していただいて、乗りやすいように今私もなるべく現金を入れないように、Pay Payを使うように

ね。最初使おうと思ったのがあい愛バスを乗ってからPay Pay使い始めたんですね。そのようなこともありますから、大変助かっております。まとまりのない話ですが失礼します。

(座長 松本) はい。ありがとうございます。すごいですね。Pay Pay使われているんですね。いいですね。そうやって、皆さんがPay Payを使ってパツパツといろいろなものが支払いできて。そしてキャンペーンがありますよね。Pay Payが戻ってくるという。そういうのを沢山やっていただいて。はい。ありがとうございました。ぜひ、ご利用いただければと思います。ちなみにですね、90歳の方がまだ車を乗られるというお話がありましたが、おそらくその90歳の方は、バスの乗り方がわからないとか、時刻表がわからないとかわからないことだらけで、それを自分で調べようという意欲もなかなか難しくなってくると思うんですね。ですからやっぱりそういう時は手取り足取りになるかもしれませんが、誰かが乗り方を教えてあげるとするのが非常に重要で、その一步一步経験するというような機会があるといいと思うんですね。そういう意味では乗り方教室というのも有効なんですけど、実際に自分の家から乗ってどこかに行つてというツアーみたいなものですかね。そういうのが本当に有効だなと思いますので、そんな取り組みもゆくゆく、進めてもらっているかな、と思います。ありがとうございました。それでは坂井さんお願いいたします、

(美濃加茂商工会議所運輸通信部会 坂井) 私住まいは蜂屋町ですけども、蜂屋町でも通学に使う高校生のバスストップで待っているのをよく見かけることが多くなりました。その中で、バスの時刻を毎日我が家からバスが通るのが見えるもんですから、今あい愛バスが通ったから何時というのがピンとくるのですが、やっぱり時刻通りに走っているのかなというのが、時折私の時計と見比べると早く行くときがあるんですね。2、3分。遅れることなくいいのか、早く行っちゃってもいいのかというのを見かけることがあるんですが、大きな時間差じゃないです。本当に2、3分のことなんですけど、そういうのをちょこちょこ見かけるものですか、その辺のところどうなんだろうという。

(座長 松本) ご指摘ありがとうございます。2、3分でもだめです。1分でも駄目です。まず事務局から言いましょか。

(事務局) はい。早い時間の走行についてですが、恐らく平日だったり休日だったりとか交通状況によってもバス区間の通る時間について多少前後はあるかと思いますが、バス停については、もし早い時間の場合はバス停の運転手さんに必ずそのバス停で待っていただくようお願いしておりますので、バス停の発車時間より早く出発するということはないかと思えます。事務局の認識としては以上です。

(座長 松本) なるほど。素晴らしいです。そういうことですね。バス停で時間調整のため待っているということですね。いかかでしょうか。新太田タクシー様。

(新太田タクシー(株) 渡辺) 新太田タクシーとしてはもちろん、早発というのは厳禁ですので、そこは大変厳しく、私の方でも指導している状態でありまして、そういったことはないと思います。

(座長 松本) ドライバーとして、三宅さんそのあたりの現状をご存知でしたら。

(新太田タクシー労働組合 三宅) そのはずはないと思います。すごく意識はありますので、ただ、遅れることは多々あります。時間通りに通過するのは難しく、遅れるのは変な話ですけど、どんだけでも遅れる時がありますので、ただ早発ということは意識があります。

(座長 松本) はい、ということでございますので、坂井様が見られたのは途中のバスですので、ご理解いただければと思います。決して早発はしておりませんということです。でもそうやって皆さんが確認いただくチェックいただくというのは非常にいいなと思いますし、あい愛バスの存在を認識いただけるというのはすごくいいですね。ありがとうございました。では大矢さんいかかでしょうか。

(身体障害者福祉協会美濃加茂支部 大矢) 身体障害者の会の大矢といいます。よろしく申し上げます。この利用種別ごとですが、障がい者と介護者の利用が16%と一番多い。当然かもしれませんが、本当にありがたいと思っております。私の内部障がい者でございまして、腎臓は働いていないので、透析をやっておりますので、1日おきに病院へ通わなければならない。今日も透析日でしたから、ち

よっと時間があるのでここに出席させていただきました。いろんな人がいますが、私の知り合いで、中部国際で透析をやっている人は前は元気でしたが、今は目がほとんど見えなくて車に乗れないからあい愛バスが絶対必要な方ですね。多種多様でいろんな人がいますが、本当にありがたいと思っております。ただ中部国際は病院で送迎をやらないもんですから、自分で車で通うか、家族に頼って通うか、あい愛バスのお世話になるかだと思います。一番問題に感じているのは、私は太田病院でやっていますが、中部国際は送迎やらない、関の中濃厚生もないもんですから、関からも太田病院へ通っている人がおまして、送迎が満杯になっている。病院の方としても困っており、送迎の費用がですね、どこがもつかということなんです、結局病院がもっているんです。このままでいると病院の経営にも大きな影響が出ているので、そのことを病院で話をするのですが、大変困っております。透析患者は全国的にすごく増えています。最近は機械がよくなったり、それから腎臓病から慢性腎不全に進む方がほとんど少なくなっているということですから、全国的には35万人の方が透析をやられています。私は27年やっていますが、尿が出ないので、尿がでないということは体に水分が溜まってしましますし、それから毒素も体に溜まってしまう。そのままほかっておけば尿毒性で死んでしまうので、本当に透析が大事なものです。そういう意味で、病院にしっかり通えるということは非常に大事なことなので、このあい愛バスは今後続いていただいて、利用できれば大変ありがたいと思っております。

(座長 松本) はいありがとうございます。公共交通というのは基本は誰もが使えるということだと思っております。子どもからお年寄り、健康の方から、障害をお持ちの方々だからこそ求められるのがバリアフリーだと思うんですね。これからもそういった形でバリアフリー、そういったところの支援を欠かさずにあい愛バスの運行を続けていただければということだと思います。では藤井さんお願いいたします。

(美濃加茂市健寿連合会 藤井) 私の方からはですね。高齢者のあい愛バス利用の向上。こういうことを進めてまいりたいということですが、手っ取り早いのは免許証の返上。これをやりますと、やっぱり高齢者についてはうつになる。あるいは認知症になる。要は本来から行けば高齢者が健康で地域に貢献できるような活動をしてもらいたいという願いをもちつつ。大変苦慮しておるんですね。なんかですね、高齢者が交通事故を起こすというのなら、免許証を返上しなさいということになるんですが、先ほど言いましたけど、健康という立場からいくと、市の方も当然考えてもらわないといけないのですが、それが免許証の返還、それから今の高齢者の健康、それから医療機関との繋がり。こういったこともこれから高齢者もあと数年ですけど。私は高齢者の健康を目的に健寿会ではどうするんだということをやっています。高齢者に対するいい施策を考えていただければありがたいと思っております。

(座長 松本) はい。大変重要ですよ。ちなみに、公共交通に乗るというのは体力的にも健康でないといけませんし、頭もですね、時刻表読むなり、頭も健康でないといけないんですね。ですから、日頃から健康なうちから公共交通をご利用いただくと、より長く健康が維持できるということだと思います。ただし問題なのはそのときに行ける場所が限られるというのが一番大きな問題だと思います。ですから、本当は公共交通で好きな場所に行けるような環境ができれば、いつまでも健康のまま移動ができるんです。そうすると、安心して、勉強も電話もできるということ。ただ、これが東京や名古屋、大阪ならできんですけど、地方都市となると簡単にはいかないの、どこで折り合いをつけるかっていうところだなと。これは日本全国の問題だと思っております。ですから危ないから返納しようではなくて、他にもちゃんと交通手段があって便利です。さらに健康につながるからそろそろ返納してもいいですよ。乗らないようにしませんか、車を、というようなことになると思いますよ、という気もしています。それから先ほどモデルコースという話がありましたが、ご高齢の方々が出かけるモデルコースを作っていただくといいなと思います。いろんな自治体の事例をみますと、女性は恐らく、お喋りと食べ物。これで釣ると。釣るといってはいけませんが、男性はそんなことには全然なくて、どうも男性は歴史なんです。歴史、ここをくすぐるといいなと思いますので、いいなと思っております。そんなコースを藤井さんと一緒に検討いただければ、藤井さんにアドバイスをいただければと思います。はいありがとうございます。その他皆様よろしかったでしょうか。よろしいでしょうか。それでは最後会長さんにご感想をぜひ。

(市長) ありがとうございます。最後は4名の方にご指摘をいただきまして。今後改善すること、今日も話をいただいた通り、我々自治体が向き合っていくことは多様性だと思います。なの

で、バスは皆様のご協力のおかげで捉えていることができていると思います。後は多様性に対してどう対応していくのかということと、私の話でもありましたけれども、やっぱり時代の変化に伴ってライドシェアもでてきて、市民の方からもいろいろとご提案いただくんですけれども、やはり、今日お集まりの皆さんとしっかりと専門的な知識、そして情報を入れながら、ただ事務局ご理解いただいていると思いますが、本当に一生懸命やってくれていますので、ぜひまた皆様方から今日ちょっとみんなの前では言いづらいなというお話なんかも、事務局の方にしっかりと伝えていただければすべての職員、本当にあの真摯にあい愛バスを向き合って、またあい愛バスだけではなくて地域全体のことを考えるというところで今まちづくり課におかせていただいておりますので、ぜひともですね。バスのためのバスではなくて地域のため、市民のため、そして常に利用される方々だけではなくてすべての方のためのバスという形でバスが、そして公共交通との連携を図っていきたいと思いますので、引き続き今日みたいにですね。忌憚のないご意見をいただけたら、本当に幸いです。今日は本当に皆様ありがとうございました。

(座長 松本) はい。すみません。最後とりまとめいただきありがとうございました。では、これで私の進行を終わりにさせていただきます。皆様方のご協力を感謝申し上げます。では司会にお返しいたします。

(事務局) はい。松本座長ありがとうございました。

それではですね、これを持ちまして本日の美濃加茂市地域公共交通活性化協議会を終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○閉会(16:15)